

凡 例

1. 収録の範囲

昭和51年8月1日現在における京都工芸繊維大学の美術工芸品・標本を収録した。

2. 目録の配列

目録の種別および配列順序は、東京芸術大学資料館の取扱いに準じた。また分類は、従来本学で分類整理されていたものに若干手を加え、同一分類のなかは登録番号順に配列した。

3. 目録の記載

収録した所蔵品のほとんどが、明治末期から大正初期にかけて収集されたものであり、品名内容の字句等統一または修正を要すると思われるものもあるが、これらの取扱いは下記によった。

(1) 名称等について

「見本帖・見本帳」「小裂・小切れ」、等および難読の文字は、すべて標本原簿の記載内容を尊重した。

(2) 外国名について

標本原簿中の外国名は例えば米国・英国をアメリカ・イギリスのように片仮名に統一した。

(3) 受入年月日の年号について

明治・大正・昭和を(明)・(大)・(昭)のように略した。

(4) 点数の単位称呼について

各品名毎に称呼が異なり、また同一品名でも種々の称呼があるので、これらはすべて省略した。